

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年6月26日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 2771602139 |
| 法人名 | 有限会社 関西レヂデンス |
| 事業所名 | ヴィラコティ岸部 |
| 所在地 | 吹田市岸部中4丁目12番2-100 (電話) 06-6310-8239 |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 |
| 所在地 | 大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内 |
| 訪問調査日 | 平成 20年 6月 7日 |

【情報提供票より】(平成 20年 4月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|--------|--------------------------|
| 開設年月日 | 平成 16年 6月 1日 | | |
| ユニット数 | 2ユニット | 利用定員数計 | 18人 |
| 職員数 | 30人 | 常勤 | 13人, 非常勤 17人, 常勤換算 14.5人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|------|------|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2階建ての | 1階 ~ | 2階部分 |

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|---------|------|
| 家賃(平均月額) | 65,000円 | その他の経費(月額) | 24,000円 | |
| 敷金 | 有()円 ③ | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | ④ (800,000円) | 有りの場合 償却の有無 | ④ / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 200円 |
| | または1日当たり 1,417円 | | | |

(4) 利用者の概要 (平成 20年 4月 15日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 3名 | 女性 | 15名 |
| 要介護1 | 5名 | 要介護2 | 4名 | | |
| 要介護3 | 7名 | 要介護4 | 1名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 83歳 | 最低 | 69歳 | 最高 | 93歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---|
| 協力医療機関名 | さつき訪問看護ステーション、北摂あいデンタルクリニック、なかむかいクリニック、協和会病院、博愛茨木病院 |
|---------|---|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には旧家が立ち並ぶ閑静な住宅地の中にあり、家庭的なあたたかみのあるホームです。代表者がこの地域の古くからの地主ということもあり、地域との連携や行事参加を行い地域住民との交流を重ね、今後ますます地域に根付いたホームとして期待されます。『和(なごみ やすらぎ) 楽(たのしく) 幸(しあわせにくらせるように) 志(こころざしてまいります)』を理念として職員全員で目標としています。まごころとふれあいのある“わが家”をモットーに、利用者一人ひとりの思いや意向を大切に、生活の継続と家庭的な環境を提供して利用者に安心して暮らしていただけるよう支援しています。定期的な「ホーム通信」の発刊やホームページの配信により、ご家族に安心感を与え、また関係機関との情報交換・連絡・調整にも力を入れています。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の評価の結果を真摯に受け止め、改善課題は運営推進会議などで検討課題としてあげ、事業所だけでなく地域ぐるみで具体的な改善に取り組んでいます。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者が中心となって作成していますが、サービス評価の意義や目的を全職員が理解し、職員の意見も取り入れながらできています。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は社会福祉協議会の職員、自治会長、福祉委員、民生委員、介護相談員、家族、利用者などが参加し2ヵ月毎に開催されており、現状報告や地域交流について自治会行事の参加などについて意見交換が行われています。改善の求められる「施設について」も意見交換が行われ改善に向けて話し合われています。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年4回のホーム通信『Monthly ヴィラコティ岸部』の発刊・発送やホームページの配信により事業所での暮らしぶりや行事などを定期的に分かることができます。また毎月担当者から個人の健康状態などや生活状況について書面で報告し、家族からの安心度も高い状況です。週末には家族の面会が多く、職員の対応も丁寧で、できるだけ話す機会をつくり不満など遠慮なく表せるような配慮をしています。玄関に意見箱を備えており、申し出があればすぐに対応できるようになっています。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域で開催される夏祭りに利用者みんなで参加したり、農協会館の方からの誘いでお花見に出かけたりし地域の人たちとの交流があります。また毎年吹田市の博物館での催しに参加し、「さわれる玩具」である三味線を手に取り利用者が演奏するなど利用者の生きがい支援にもつながっています。 |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「和(やすらぎ) 楽(楽しみ) 幸(しあわせ) 志(こころざす)」を事業所独自の理念に掲げ、生活者としての自立をサポートし利用者がいきいきと楽しく暮らすわが家を目指した支援をしています。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は明文化し玄関に掲げており誰の目からみてもすぐわかるようになっています。毎朝の申し送りの際、職員全員で唱和し理念の大切さについて再確認しています。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている | 地域で開催される夏祭りに利用者みんなで参加したり、農協会館の方からの誘いでお花見に出かけたりし地域の人たちとの交流があります。農協会館では利用者や地域の高齢者の方のためにと洋式トイレの設置が行われました。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は管理者が中心となって作成していますが、サービス評価の意義や目的を全職員が理解し、職員の意見も取り入れながらできています。前回の評価の結果を真摯に受け止めてすぐに改善策を検討しています。また運営推進会議などで改善課題を検討課題としてあげ具体的な改善に取り組んでいます。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は社会福祉協議会職員、自治会長、福祉委員、民生委員、介護相談員、家族、利用者などが参加し2カ月毎開催されており、現状報告や地域交流について自治会行事の参加などの意見交換が行われています。改善の求められる「施設について」も意見交換が行われています。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | ホームの運営や相談事などは気軽に応じてくれるような関係づくりができています。毎年吹田市の博物館での催しに参加し、「さわれる玩具」である三味線を手に取り利用者が演奏するなど利用者の生きがい支援にもつながっています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 年4回のホーム通信『Monthly ヴィラコティ岸部』の発刊・発送やホームページの配信により事業所での暮らしぶりや行事などを定期的に知ることができます。また毎月担当者から個人の健康状態などや生活状況について書面で報告し、その際に領収証の添付と金銭出納帳の確認を行っています。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を備えており申し出があればすぐに対応できるようにしています。家族の面会時にできるだけ話す機会をつくり、不満など遠慮なく表せるような配慮をしています。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 離職者が出た際には人材確保を早急に行い補充するよう努めています。新しい職員が慣れるまで先輩職員と共に行動し、利用者に関わっています。また利用者に対し不安を軽減できるよう配慮しています。新しい職員が慣れるまで先輩職員と一緒に行動し、シフトによって2ユニット間を行き来していたパート職員も、ユニットごとで固定勤務にすることにより馴染みの顔ぶれができ、利用者の安心につながっています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部・外部研修とも研修計画があり、管理者をはじめ全職員が研修に参加できる機会を確保しています。外部研修参加後には事業所内での伝達研修も行われています。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホームなどへ見学に行ったり、逆に他のグループホームから見学に来たりと交流を図りサービスの質の向上に努めています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に家庭を訪問しその方の生活状況を確認したり、体験入居を実施したりすることによりすぐに入居するのではなく、徐々に顔見知りになっていき馴染みの関係づくりに力を入れています。環境の変化に戸惑いがないよう心がけています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている | 人生の先輩である利用者から「家族を大事に思う気持ち」や「家族の大切さ」を教えてもらったという職員の声もありました。食事の準備を一緒に行ったり、洗濯物を一緒にたたんだりしながら、日常生活のなかで役割をもち生き生きと活躍できるよう支援しています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員はアセスメントシートや日々の生活状況により利用者の意向の把握に努めながら支援しています。夫婦で入居されている方は別ユニットに入居していますが、どちらかが会いたいと希望すれば訪問できるよう配慮しています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|---|--|------|---|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画作成時はケアマネジャーを中心に、介護職員も意見を出しながら作成し、家族の同意も得られています。しかしながら、事業所独自の経過記録はあるものの、アセスメントの情報や、記録が不透明で介護計画に反映しづらいものとなっています。 | ○ | センター方式などの継続的な活用を行い利用者一人ひとりの生活特性を把握し、日々の支援に生かすことが求められます。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は定期的に3ヶ月毎にまた状況の変化がある時はその都度見直しています。日々の経過記録と職員の意見からモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っています。モニタリングと見直しのためのカンファレンス記録を明確にし、誰でもがすぐに確認できるよう書類の整理が望まれます。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用） | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 自治会を通して事業所の行事のお知らせをお伝えしたり、常に自由に訪問していただけるよう配慮しています。認知症のことだけに限らず、福祉に関する相談など気軽に立ち寄っていただけるようなホーム体制を目指しています。また職員が通院介助を行うこともあります。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月2回近所のクリニックから往診の受診支援を行っています。専門医の受診については家族以外に職員同行で通院することもあります。緊急時はクリニックと24時間の訪問看護ステーションが連携をとり対応しています。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホームでの看取りについては家族からも要望があり、ホーム内でも指針を作成し各関係者との連携を図っています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | プライバシーの保護や尊厳について、職員一人ひとり心掛けており、また十分に配慮しています。利用者に対する言葉かけや態度も明るく丁寧で優しく接しています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|------|---|
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食欲低下により食事ペースがゆっくりな利用者には、職員が横に付きその方のペースに合わせ食事支援を行っています。常時徘徊がある利用者には、制止することなく危険のないよう傍で見守り、一緒に歩いたり声をかけたりしています。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は3食とも外注による半調理のものを活用しています。利用者の好みを把握し、魚類が苦手な方には他の食材で代用しています。利用者と共に食材を切ったり、盛り付けを行ったりしています。また利用者と外出の際に、食材を購入することもあります。今後は定期的に利用者とメニューを考え、買い物や調理など食事を楽しむことの支援を実践されてはいかがでしょうか。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 曜日や時間の決まりはなく、いつでも入浴できる体制ができています。入浴した日や回数を職員が把握しており定期的に入浴できるようさりげなく声かけを行っています。体調不良などで入浴できない利用者には清拭や足浴で清潔の保持を行っています。毎日入浴している利用者もあり、それぞれに合せた対応は行っていますが、平均して週2回程度の方がほとんどでした。 | ○ | 利用者の体調にもよりますが、約8割の方が週3回入浴できるような支援が求められます。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|------|---|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 自宅にあった鉢植えをバルコニーに置き、毎日水やりをすることが楽しみになっている方もいます。職員はそっと傍で見守り、お花の話をしている姿は生き生きとして笑顔が見られました。またハーモニカの得意な方はクリスマス会などで披露するため居室で練習を行い、その練習を職員が付き合う等張りのある生活を送っています。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 外出の希望があれば職員の時間が許す限り、一緒に出かけています。近くのスーパーマーケットにおやつを買いにいたり、ホームの周りを散歩したりしています。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | ホームの玄関は開錠されていますが、門扉、各ユニットの入り口は施錠されています。2階エレベーター室は外部からは入室できませんが、内部からは自由に出入りできません。 | ○ | 施錠については家族からの希望・意向の確認や運営推進会議での意見交換などを行い改善について検討しています。出入りが自由でないことに対する利用者の不安感や束縛感に配慮して職員はできるだけ早くその状況を判断し対処しています。今後鍵をかけないケアができるよう継続して会議や職員間で話し合っていくことが求められます。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に2回避難訓練を行っており、そのうち1回は消防署の協力も得て実施しています。利用者すべてに対し「非常用セット袋」が用意されています。その中には1～2日程度の食料・飲料水とその方に合わせた必要品（衣類・オムツ等）が用意されています。職員用にも「非常用セット袋」を準備していますが数が少ないため、今後は備蓄として2～3日程度の食料品と水の用意が望まれます。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスは外注の食材でカロリー計算できています。食事摂取・水分量は毎回記録し職員全員が把握できています。体調に合せおかゆを調理することもあります。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 不快な音や光は感じられませんでした。玄関や居間、廊下はちょうどよい明るさで1階にはバルコニーがあり開放感がありました。食卓以外に自由に過ごせるソファや椅子があり、利用者は思い思いのところでゆっくりとした時間を過ごしています。居間には毎月季節の花が生けられ、2階では利用者が自ら花を生け飾っています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室内はすべて持ち込みで、利用者が自宅で使い親しんだタンスやいす、テーブルなどを使用されていました。また絵画など自分の思い出の作品や家族の写真など、自由に持ち込み安心した生活を送っています。 | | |